学校番号	３０４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	日本史探究（実教出版）						
副教材等	図説　日本史通覧（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生で学習した「歴史総合」を踏まえた日本史探究の学習をとおして、我が国の歴史について、単に歴史事項を羅列して覚えるのではなく、何故このような事が起こったのかという歴史的思考力を養ってほしいと思います。また、各時代の史資料の読み取りや、多くの歴史上の問いに対する自分の考えを表現できるようになってほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・我が国の歴史の諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に理解する。諸資料から様々な情報を読み取り、まとめる技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
・歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考することができる。また、それを表現することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
・歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に理解する。諸資料から様々な情報を読み取り、まとめる技能を身につけるようにする。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。また、それを表現することができる。	日本史探究の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける努力をしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	原始・古代	・文化のはじまり ・農耕社会の成立 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容	a:日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 国家の形成と古墳文化について、大陸や朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 平城京における政治動向や平安遷都前後の諸政策について、遣唐使の派遣や東アジアとの関係の変化などに着目して理解している。 b:小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料を基に考察した結果を、根拠を示して表現している。 文献資料をもとに、藤原氏を中心とする政治抗争から平安遷都に至るまでの過程について考察し、根拠を示して表現している。 盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 c:黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察す	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録・発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表

			ることを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見いだそうとしている。 　隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立とのつながりを明らかにしようとしている。 　平城京における政治抗争から平安京遷都までの動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追求しようとしている。			

2学期	古代・中世	・律令国家の変容 ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 ・院政のはじまり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭	a:藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、承久の乱後の北条氏を中心とした政権運営などについて理解している。 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立、庶民の台頭や経済の進展によって村や都市の自治が成立したことなどについて、諸資料から情報を収集して理解している。 b:国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有が持つ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。 南北朝の動乱などに見れらる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録・発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表

			古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探求しようとしている。 公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について、主体的に追究しようとしている。 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。			

3学期	中世・近世	・室町文化 ・戦国大名の登場 ・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の確立 ・幕藩社会の構造 ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化	a:経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代の多様な文化の形成や融合について理解している。 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係、幅広い国際性を持つ桃山文化について理解している。 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立、対外政策の推移について理解している。 諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換がはかられ、幕府政治が安定化していく推移や、17 世紀以降の経済の発達と町人らが担い手となった文化について理解している。 b:室町時代の文化の特徴と当時の政治や経済の動向との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 戦国大名による領国支配との類似性や相違に着目しながら、織豊政権の諸政策について、また、ヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 織豊政権と幕府の支配構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について、多面的・多角的に考察し表現している。 戦乱のない時代が創出されたことの意識を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 c:室町時代の宗教や文化の特徴について鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとする。 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録・発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表

			幕藩体制の確立から安定化していく過程における幕府の諸政策によって、人々の生活がどのように影響を受けたかということを主体的に追求しようとする。 幕藩体制が安定してくる中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17 世紀の文化の特色を明らかにしようとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度